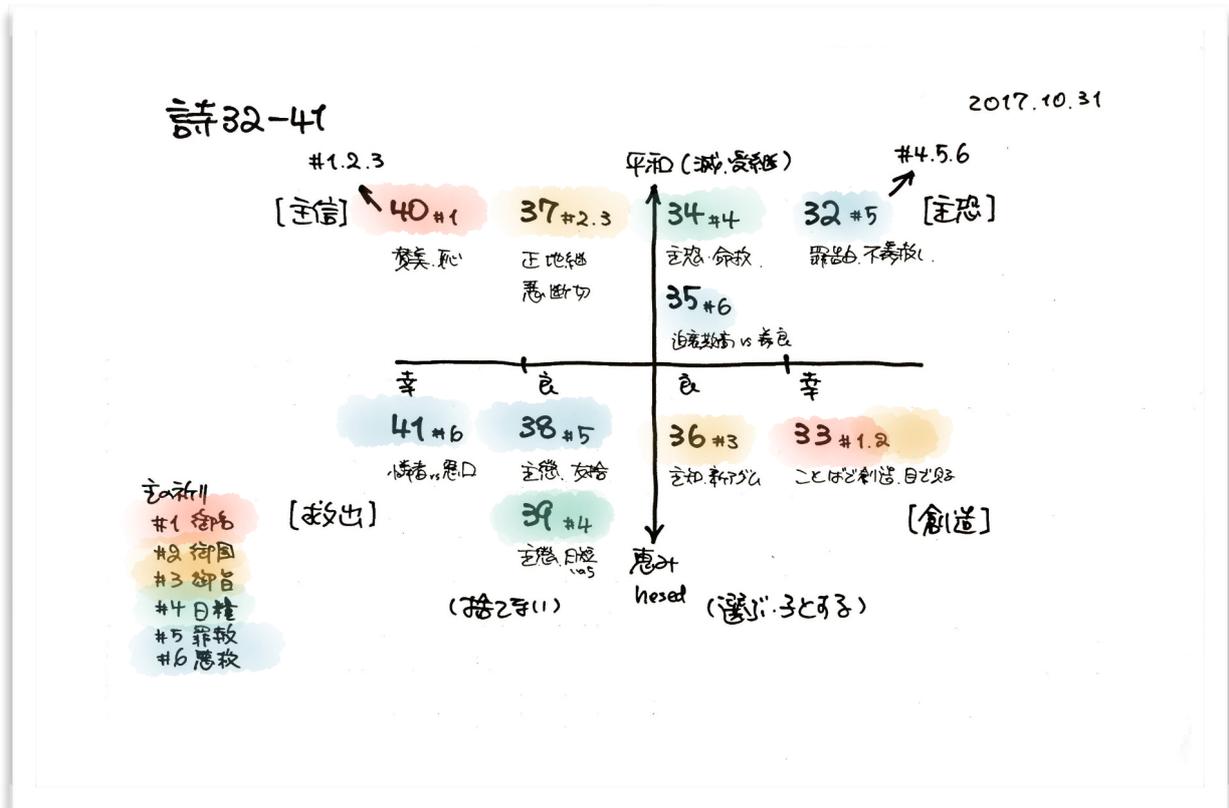




第1巻第1集

詩篇32-41篇の配列構造



詩篇32篇から41篇までの配列編集構造ということで、これは、2016年10月7日のがあります。この中の並行分析の中で、主の祈りの2,3,5,6。主の祈りの構造と一緒にみると良いでしょうかと言われているこの文章がありますね。(主の祈りの)1番目と4番目が無いねとなっていましたけれど、今回は見直してみましたら、1番目と4番目もありました。それで見たのがこの並び方です。

32,33,34,35,36とこの並び方自体は前回と変わっていませんけれど、右上の32,34,35に、4番,5番,6番が、38,39,41に4番,5番,6番という主の祈りの課題が求められている。主の祈り自体が神様から報いを受けたい、どういう報いを求めたら良いですかという祈りですから、この報いの段落の、幸いに囲まれて(33,41)トブ、トブ(36,38)と言われている、幸いに囲まれて(41,40,32,33)トブ、トブ(37,38,39,34,35,36)と言われているこの報いの詩篇集の概略に、主の祈りが枠組みになっているというのは、またどうかと思えますけれど、32,34,35が(主の祈りの)4,5,6、38,39,41が(主の祈りの)4,5,6というつながりになっています。

それと、33と36、ここに1,2と3がある。37,40のところにも1と2,3がありますということなのですが、この33のところ、いつもは1と2,3を分けているのですが、33のところに1と2が両方入っているのかなということ。御名をほめ歌いましょうという「新しい歌を歌う」が33と40にあります。33の終わりは40の始めになっています。ですからこれは、一緒に見ることが言われている詩篇だと思います。

(40の)「新しい歌」、(33の)「新しい歌」。神様がことばで作りました。そして、天から見て良しとされましたということなのですが、主の御名に信頼するがゆえに、主の御名を歌うという中に、神様が国を作る、ご自分の民を作りますということが入っていますので、1と2が混ざっているようなものかなと。

3とっている36篇は、いつくしみ、いつくしみ、いつくしみという、いつくしみが、恵みの愛が強調されています。天地創造とエデンの園、そして、アダムのことを思い出すように、あなたを知る者、知恵を得ること、善を行うこと、良い道、悪を嫌うというエデンの園のさばきのことを連想するようなものなのですけれども、これが神様の御心ということで、3番かなと。

特に義のさばきということが言われているので、33のほうは1と2。36のところ、義のさばきが強調されているかなと。

37は、正しい者、悪者、正しい者、悪者、地を相続する、滅びる、消え失せる…というずっと長いアルファベットの詩篇です。正しい者は地を受け継ぎ、悪者は断ち切られるということですが、口語訳だと国を継ぐと書いてあります。地を受け継ぐが国を継ぐと書いてあります。最後のさばきが来るとこうなるよ、神様の国が来るとこのことがなされますよというのが37篇ですから、神様の国、そして、国の中で正しい者と悪者に完全なさばきがなされる御心ということで、37のほうは、2と3。

40のほうは、主に信頼する者は誉めたたえられて、悪者は恥を見るということで、御名の栄光と高ぶる者たちの恥ということで、これが1番というようにみえています。

32は罪の赦し、罪の告白ですから、5番で良いかなと。

4番と書いてある34篇は、これもアルファベットの詩篇ですけど、ラシオンハラアと戦っている。第1ペテロ3章で引用されている詩篇です。主に信頼するものは足りないことがない、飢えることがありません、しもべの命が躓かれるというようなことなので、いのちを慕い長く生きる永遠の命が欲しい者はどうしたら良いですかということなので、いのちの話で、4番目の日毎のパンということだろうということで、これが34篇です。

35篇は、悪者が迫害する者、裏切る者、欺く者、高ぶる者に対して、私は善を行う、私の義に従ってということで、善悪の戦いをして、試みに会わず悪から救われるようにというのが35篇です。

38と39は、神様に懲らしめられている、懲らしめられているけれど、私は黙っています、黙っています、友だちに見捨てられている、日が短い、命が短い、命が捨てられているという、日が短い、いのちの話をしていますので、こちらは4番目、捨てないでくださいということと、友だちに見捨てられている、罪を赦す話は兄弟の罪の赦しの話なので、罪を赦さないという感じです。兄弟を愛することをしないという友を見捨てるというのが38ですので、これは5番目です。

最後の41は、神様は憐れむ者を憐れみ、悪を言う者たちを滅ぼされるということです。神様は見捨てることはありませんということで、悪に対してその誘惑に打ち勝つ、憐れみをもって戦うという6番。

主の祈りの1,2,3,4,5,6ということで、この全体を見ることのできるのだろうと思います。下の33,36,38,39,41こちらは恵み、神様に選ばれる、子どもとされる、その子どもは絶対に見捨てられない、創造と脱出、主を恐れる者と主により頼む者、主を恐れて主を知っている者と主を信じてより頼んで絶対離れないという者たち、これが上側です。こちらがその人たちは平和、シャロームを得る、滅ぼされることなく相続をうけるとい

うのが上の平安。恵みと平安ということで、この形になっているのではないかと思います。